

医者がすすめる 専門病院

九州・沖縄県版

医療研究グループ編

宮崎県立宮崎病院 眼科

☎0985(24)4181

〈病院紹介P. 688参照〉

スタッフ 藤澤公彦副医長、田中弘恵副医長の常勤医師2人、非常勤医師1人、研修医1人。

特色 病院は県の中央病院と位置づけられており、そのため当科も眼科疾患全般を対象としている。入院患者の約80%を手術目的の患者が占める。

症例数・治療・成績 平成6年の入院患者の手術は約400例で、その内訳は、白内障手術250例、網膜剥離手術40例、硝子体手術40例、緑内障手術20例、その他の手術が50例である。白内障手術では、ほとんどの症例に眼内レンズを挿入している。網膜剥離の初回手術での復位率は95%を超える。硝子体手術は、糖尿病網膜症をはじめとする硝子体出血、黄斑円孔などの黄斑部疾患、増殖性硝子体網膜症など様々な症例を対象としている。緑内障の治療は、眼圧、視野、視神経乳頭の変化を総合的に評価して行っている。最近では、白内障手術と硝子体手術、白内障手術と緑内障手術、白内障手術と角膜移植術などの同時手術の症例も増えている。内反症、翼状片、眼瞼腫瘍切除などの小手術は外来で実施している。様々な疾患に対して、外来でレーザー治療を行っている。

医療設備 超音波白内障手術装置、硝子体手術機器、アルゴンレーザー、YAGレーザー、角膜形状解析装置。

外来診療 月～金。藤澤副医長は火・水・木、田中副医長は月～木を担当。



藤澤 公彦
昭和33年生まれ。61年九州大学医学部卒

宮崎

宮田眼科病院

☎0986(22)1441

〈病院紹介P. 688参照〉

スタッフ 宮田典男院長（白内障、緑内障、網膜剥離）、福島茂副院長（網膜、硝子体、特に糖尿病網膜症）、中村ヤス子副院長（斜視、弱視、神経眼科）を含め常勤医師7人、非常勤医師11人。

特色 眼科の総合病院を目指し、白内障、緑内障、角膜、網膜、硝子体、斜視、弱視、神経眼科などの専門外来に各部門の権威を招いて充実を図っている。

症例数・治療・成績 入院ベッド数73床、平成6年の1日の外来患者数350～500人（年間入院患者延べ数20,172人、年間外来延べ患者数104,692人、うち新患12,994人）。手術件数は年間1,987例。主なものは眼内レンズ1,346例、緑内障67例、網膜剥離162例、硝子体手術151例、外眼手術181例。レーザー治療は721例。白内障手術の殆どは眼内レンズ挿入術（小切開、無縫合）である。全身状態の悪い患者は毎週木に、内科医、麻酔医の立ち会いの下で手術を行っている。

医療設備 手術室3室、現在設備しうる全ての手術機械を設置。外来設備は角膜内皮測定および解析装置、レーザーフレアセルメーター、TMS（角膜形状解析装置）、SLO（走査型レーザー検眼鏡）、A.B.モード超音波解析装置、視覚電気生理検査装置（ERG、VEP、EOG）、自動グリコヘモグロビン測定装置、各種レーザー装置（YAG、アルゴン、ダイレーザー）など。

外来診療 月～金。土は午前中。ただし、院長・副院長は毎日午後から手術。



宮田 典男
昭和3年生まれ。26年鹿児島医専卒